



4月号 令和5年4月7日発行

# 窪田小だより

横浜市都筑区窪田南町694番地 [Tel.911-0149]  
[http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/eda/]



## 探究心を育む学校を目指して ～新しい教科書を手にしたとき～

校長 伊藤 智樹

お子様のご入学・ご進級おめでとうございます。1年生が入学し令和5年度がスタートしました。教職員も新たなメンバーが着任しました。教職員一同、気持ちを一つにして新しいスタートをきりたいと考えています。3月27日にメール配信しました通りに4月1日よりマスクの扱いについて変更となりました。5月8日から新型コロナウイルス感染症の法的な位置づけも変更になる予定です。5月8日以降の感染症対応に関しては市からの通知があり次第お知らせいたします。

どの学校でも校種を問わず、始業式の翌日などにその学年で使用する教科書を配布します。今年度は暦の関係で週明けの4月10日(月)に配付することになるかと思えます。新しい教科書を手にとるとワクワクドキドキしながら新品の教科書の匂いをかんだり、教科書をめくったりしていることが見られます。「このような実験をするんだなあ」「図工で彫刻刀を使うんだね」などその学年で学習する内容の見通しをもつこともあります。

哲学者和辻哲郎(1889-1960)短編作品の中に「茸狩り」という作品があります。筆者の幼少期に茸狩りに夢中になった思い出を材に「探求とは何か」(※原文では探求)「物のもつ価値」について考察したものです。和辻は作品の中で「初めは茸の価値(毒茸なのかおいしい茸なのか)分らなかった。茸を探しながら、どれが毒茸でおいしい茸なのか、茸はどのような場所に生えているのか、等を子ども同士で情報交換をし、茸に関する知識やデータを積み上げていくことが楽しくたまらなかった。その積み重ねが茸の価値を理解することにつながった」と述べています。この作品は87年前の1936年(昭和11年)に発表されたものですが、令和の学習活動にもあてはまる内容であると考えます。「教え込まれた価値(知識)」ではなく、茸狩りという探求(探究)活動に没入したことにより得られた価値(知識)は、他の場面でも活用することができます。学ぶことの本質です。



学校では紙・電子に限らず教科書を中心とした様々な媒体を用いながら知識を得たり、思考力や判断力、表現力を身に付けたりします。私たち教職員の使命はただ知識を教えるだけでなく、子どもたちが没入できる探究活動等を通して「価値ある知識」を身に付けさせること、人と人が互いの思いや考え、願いをもとに話し合い考えることでよりよい社会をつくっていくという感情の涵養ではないかと思えます。本校が学校教育目標に掲げている内容そのものです。

時代の変化に対応した教育内容を取り入れながらも、本校の伝統を守り、地域を核にした教育活動を大切にしていきたいと考えています。どうぞ変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

### 窪田小学校の学校教育目標

#### 「つくろう明日 わたしはチャレンジャー」

- 【知】自ら考え、よりよく解決する力を育みます。
- 【徳】自分を大切にし、人を思いやる心を育みます。
- 【体・徳】豊かな体験を通して、健やかな心と体を育みます。
- 【公】つながりを大切にし、よりよく生きようとする力を育みます。
- 【開】コミュニケーションを通して互いの違いを理解し、ともに生きていく力を育みます。

